

令和5年度 施設関係者評価

認定こども園みくになかよしこども園

1. 園の教育理念

- ・安全安心の中で健全な成長を図り、個々の成長を援助する
- ・個々の安心感の中で社会性の基礎基本を経験する
- ・基本的な生活習慣を身につける中で、様々な事物に興味関心を持つ

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設

定した学校評価の具体的な目標や計画に対しての自己評価と外部評価

評価委員：嘱託医・当園理事・保護者

評価項目：施設関係者評価

3. 各評価項目

【感染性の病気の対応、園内の消毒業務について】

評点：B

今年度はコロナにおける対応について、5類への移行から徐々に従来の形へと戻っていった。園内の消毒については、柏市の出している目安表に沿って継続して続けている。

感染性の病気についてはコロナの他に、インフルエンザ、アデノウイルス、ヘルパンギーナ、溶連菌、手足口病等が流行ったが、その都度、保護者とも情報を共有し、感染防止に努めた。

行事についても、昨年度に引き続き、宿泊保育やクリスマス会、運動会（学年ごとに開催）を行った。加えて、保育参観、小学校交流会、なかよしまつり等、コロナで制限或いは見合わせていた行事についても再開している。

———感染症等が出た場合には、今後も迅速に保護者と共有をしてほしい。制限がなくなったため、今後行事はコロナ以前以上に盛り上げて行ってほしい。

【教師間で互いの保育について話し合い、評価・反省をして次の保育に生かされたか】

【報告・連絡・相談事項があったら職員間でスムーズに伝達できたか】

評点：B

年度途中で育休取得による職員の欠員があったが、都度新たな職員を補充したり、フリーの職員がクラスに入る等してカバーを行った。

担任の保育以外の時間確保は十分に取れていたが、連携面で伝達が不足していたり、保護者から聞いた話が複数担任の中で共有されていなかったという問題点も出た場面もあったため、クラス毎だったり幼児・乳児毎に会議を開き情報を共有することで問題解決を図った。

職員間での伝達の際には、伝達・連絡の内容の意図がうまく伝わらなかった場面があったため、今後の課題となる。

昨年度に引き続き、チェックシートを用いて保育の振り返りを行い、職員自身が自分の保育を見つめ直す機会を設けた。

——保護者からの伝達など、担任によって知らなかった、ということがないように、職員間での情報共有を徹底して行ってほしい。

【子どもの虐待防止についての取り組みは十分だったか】

評定：A

今年度も様々な地域で不適切保育に関する報道がなされ、改めて各々の職員が自分の保育を見つめなおすきっかけとなった。

身体的虐待に限らず、保育者から子どもへの言葉のかけ方が心理的虐待に該当しないか、今後も気を付けていきたい。

——一つひとつ保育を振り返って、子どもの過ごしやすい環境づくりに努めてほしい。また職員同士でより良い保育を目指してほしい。

【保護者からの意見要望への対応について】

評点：B

昨年、職員と保護者のやりとりに対する意見要望が上がったが、「認識の違い」や「伝え方の未熟さ」により意図しない意味合いで伝わってしまったことへの反省を踏まえ、今年度は職員と保護者のやりとりで「相手の受け取り方」を意識して対応するように努めた。また日常での保育を通し、職員は保護者との信頼関係を築くように努めている。

アレルギーや熱性けいれん等個別の対応が必要な児については、保護者と対応の仕方や要望を聞き取り、連携をとりながら、園児が安全に過ごせるように配慮をするように努め

た。

——保護者それぞれに家庭の事情等は異なるため、今後も相手にどう伝わるかを意識して対応してほしい。

【安全管理体制の整備や安全管理についての理解を深められたか】

評点：A

遊具の安全管理や点検はしっかりマニュアルに沿って進め、破損等がある場合には早急に対処を行った。また夏場に蜂の巣を発見した際には速やかに駆除を行っている。また冬の降雪の恐れのある日には、自由登園とし、登降園での安全を図るなど、職員が安全への意識を高くもって対応している。

年間の避難訓練を通し、不審者が入ってきた際の職員対応の徹底や職員間での想定共有、また災害時に備え、避難場所の把握や避難の練習をすること等は今後の課題である。

また、日々の安全については、今年度終わりに園庭に新しい遊具も設置したため、新たな怪我の危険性がないかを考慮して、保育をしていく必要がある。

——災害、特に地震は最近非常に増えてきている。万が一の事態に備えて、今一度安全管理や職員の対応の徹底に努めていってほしい。

【子育て支援事業はきちんと行われていたか】

評点：C

子育て支援事業は、在籍保護者からの子育てに関する相談に応じ、情報提供及び助言を行っている。

一方で地域に根差した子育て支援は限定されているため、今後の課題となっている。

——在籍園児に加えて、近隣家庭にも開かれた園となるように、支援事業を行ってほしい。

【小学校・近隣園との連携は十分とれていたか】

評点：A

小学校との交流として行っていた小学校訪問は、これまで制限があったが、今年度は年長児全員で参加することができた。小学校訪問を通して、年長児の進学への期待を高めている。

進学に向けての引継ぎを通して、小学校との連携は深めている。

また、小学校の教員に加え、地域の保育園の職員とも園長会、主任会、議会会を通して意見交換を行い、情報の共有や今後の保育について考えるきっかけを作っている。

——園内のみで完結せず、他園や小学校との交流を密にして、情報共有や、よりよい保育のための情報のアップデート等、今後も交流関係を生かして行ってほしい。

【教職員の研修は十分行われていたか】

評点：B

オンライン研修に加え、実地での研修も開催が増えている。積極的、自主的な参加を推奨するとともに、研修で得た知識を職員間で共有する職員体制を構築していくことが今後の課題である。

——研修で取得した内容を園に還元し、よりよい保育を園全体で行えるように努めて行ってほしい。

令和6年3月に個別の意見を集計